

■ 2009年度 入試問題分析シート ■

名古屋大学

前期日程

科目

国語(古文)

試験時間	105分	満点(配点)	文 400点, 教育 600点, 経済 500点, 医(医) 150点	出題数	現代文 1題, 古文 1題, 漢文 1題			
総括					難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
					分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

例年と同様に、口語訳と説明問題の出題であったが、近年続いていた文法問題の出題が見られなかった。

〈合格への学習対策〉

語句・文法などの基本学習をベースにして、正確な口語訳の方法と、記述による説明の練習を積むこと。

問題分析(本文)

問題番号	類別(ジャンル)	出典(著者)	コメント(特徴・出題頻度など)	本文のレベル
二	随筆	『蜘蛛のふるまひ』(本間遊清)	江戸時代の国学者の随筆であるが、この筆者の作品からの出題は非常に珍しい。	標準

設問分析

問題番号	設問番号	設問形式	設問内容(特徴・解答上のポイントなど)	設問のレベル
三	問一	記述	口語訳問題。a「庵をさし込めてかがまりをる」、b「調じなまし」、d「雫もよよと食ひぬらし」などが、やや難しい。	やや難
	問二	記述	和歌の口語訳問題。「心情について説明を補いつつ」という指示への対応がやや難しい。	やや難
	問三	記述	心情説明問題。前半部の筆者の「いらだち」の心情と、後半部の「幼いわが子に対する愛情」をそれぞれつかみ、それらをまとめて説明するのがポイント。	標準

「本文のレベル」と「設問のレベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、難易度を5段階(難・やや難・標準・やや易・易)で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。